

長 崎 県 観 光 統 計

平成21年(1月～12月)



長崎県観光振興推進本部

目 次

1 . 観光を取り巻く全国の状況	4
2 . 長崎県の動向	6
(1) 概要	6
(2) 地域ブロック別動向	8
(3) 日帰り・宿泊別観光客の動向	13
(4) 地元・県内・県外別観光客の動向	14
(5) 外国人宿泊客の動向	16
(6) 修学旅行宿泊客の動向	18
3 . 長崎県の観光消費額の動向	19
(1) 平成21年の観光消費額	19
(2) 日帰り客の動向	19
(3) 宿泊客の動向	20
資料編	21

この統計表の見方

用語の解説とそれらの相関関係

(A) 観光客延数・・・観光の活動量を日単位で表すもので、当該地を訪れた観光客の滞在日数の合計としての入込者数で表される。

<算式で表すと>

$$\text{観光客延数} = \text{宿泊客延滞在数} + \text{日帰り客数}$$

(B) 宿泊客延滞在数・・・次の2つの要素を合計したもので、当該地に来訪した宿泊をともなう観光客の滞在日数の合計としての入込者数で表される。

<要素>

(1) 宿泊客実数・・・何泊したかを問わず当該地に宿泊した観光客の合計

(2) 延宿泊数・・・当該地の宿泊観光客の延宿泊数の合計

<算式で表すと>

$$\text{宿泊客延滞在数} = \text{宿泊客実数} + \text{延宿泊数}$$

(3) 平均宿泊数・・・当該地の宿泊観光客が平均何泊するかを表すもので、必ず1(泊)以上として表される。

<算式で表すと>

$$\text{平均宿泊数} = \text{延宿泊数} \div \text{宿泊客実数}$$

(C) 観光客実数 = 日帰り客数 + 宿泊客実数
= 地元客 + 県内客 + 県外客

具 体 例

2人が3泊し、1人の日帰りがあった場合

宿泊客実数・・・2人

延宿泊数・・・6人 = (2人 × 3泊)

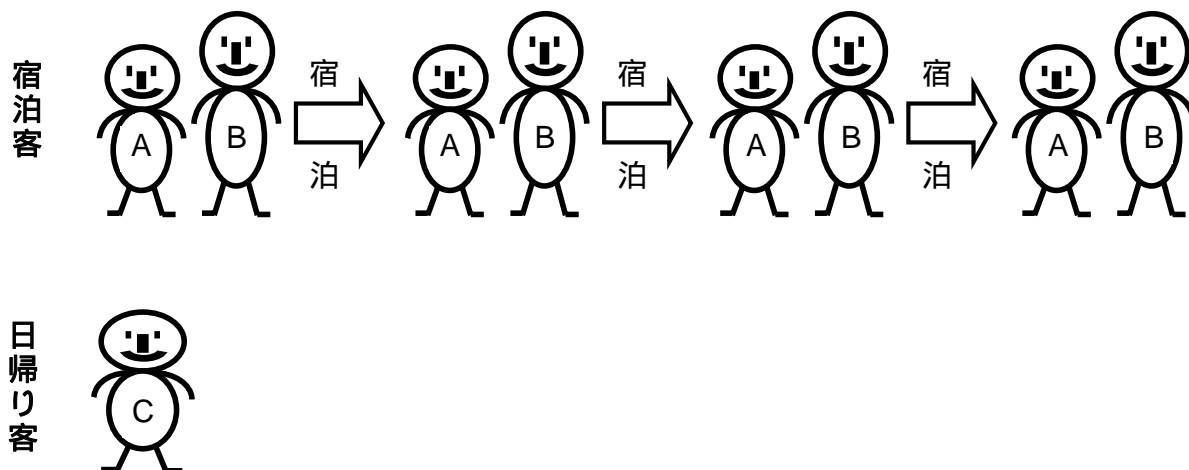
宿泊客延滞在数・・・8人 = (2 + 6)

日帰り客数・・・1人

観光客延数・・・9人 = (8 + 1)

観光客実数・・・3人 = (2 + 1)

図 解



調査概要

作成にあたっては、宿泊施設における聞き取りや県内各ブロックの主要観光施設の入り込み状況、航路・空路の乗降客数等を考慮し、平成21年12月31日現在の各市町が推計したものを県において集計したものである。

地域ブロック区分

この統計表における地域ブロック区分は以下のとおりである。

長崎・西彼：長崎市、長与町、時津町
佐世保・東彼：佐世保市、東彼杵町、川棚町、波佐見町
島原半島：島原市、雲仙市、南島原市
諫早・大村：諫早市、大村市
平戸・松浦・北松：平戸市、松浦市、小値賀町、江迎町、鹿町町、佐々町
西海：西海市
五島：五島市、新上五島町
壱岐：壱岐市
対馬：対馬市

再算定について

近年、市町村合併の進行等により、複数の市町において観光客数の算定方法見直しが行われている。この統計表においては、前年からの増減を正確に把握するため、見直しを実施した前年の数値について再算定を実施し、再算定前の数値と併せて掲載している。（ただし、平成19年以前については、再算定後の数値のみを掲載している）

なお、本年は、佐世保市において算定方法の見直しが行われたため、平成20年の数値について再算定を行っている。

平成 2 1 年長崎県観光統計

長崎県の観光客数 28,128,697人(対前年+0.9%)

平成20年1月から12月まで

～ 平成20年の27,882,096人(注)と比べ、246,601人の増加 ～

(単位：人、%)

	平成20年	平成21年	増 減	対前年
観光客延数	27,882,096	28,128,697	246,601	0.9
日帰り客数	17,359,982	18,426,149	1,066,167	6.1
宿泊客延滞在数	10,522,114	9,702,548	819,566	7.8

(注) 佐世保、島原、平戸、五島各市において、平成21年から観光客数の算定方法が一部変更されているため、平成20年の数値は、同じ方法により推計した再算定数値を用いている。

<参考：平成20年数値>

(単位：人)

	昨年統計	再算定	増 減
観光客延べ数	28,241,169	27,882,096	359,073
日帰り客数	17,086,474	17,359,982	273,508
宿泊客延滞在数	11,154,695	10,522,114	632,581

1. 観光を取り巻く全国の様況

(1) 国民の観光動向

観光白書(平成22年版)によると、国民一人あたりの国内宿泊観光旅行は、平成3年をピークに減少傾向にある。平成21年度(推計値)は4年連続減の2.31泊と推計され、20年度から0.05泊の減少となった。(参考1-1参照)

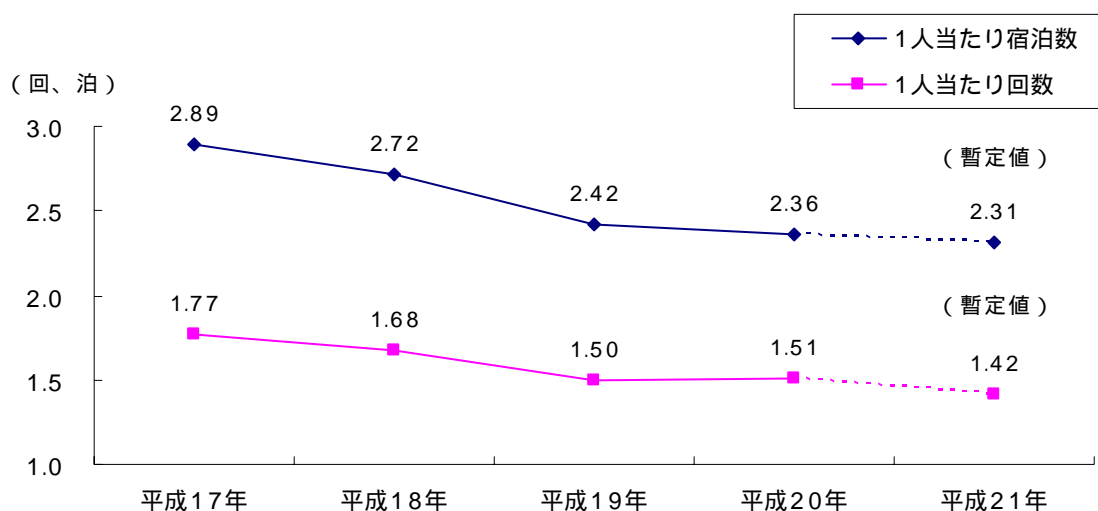
また、主要旅行業者62社の国内旅行取扱額は、3兆5603億円となり、前年から4668億円減少(11.6%)した。

(2) 訪日外国人の動向

日本政府観光局（JNTO）によると、平成21年（1～12月）の訪日外客数については、前年発生した世界金融危機を契機とした景気後退と円高の継続に加え、新型インフルエンザの流行等により、対前年18.7%減の679万人となった。（参考1-2参照）

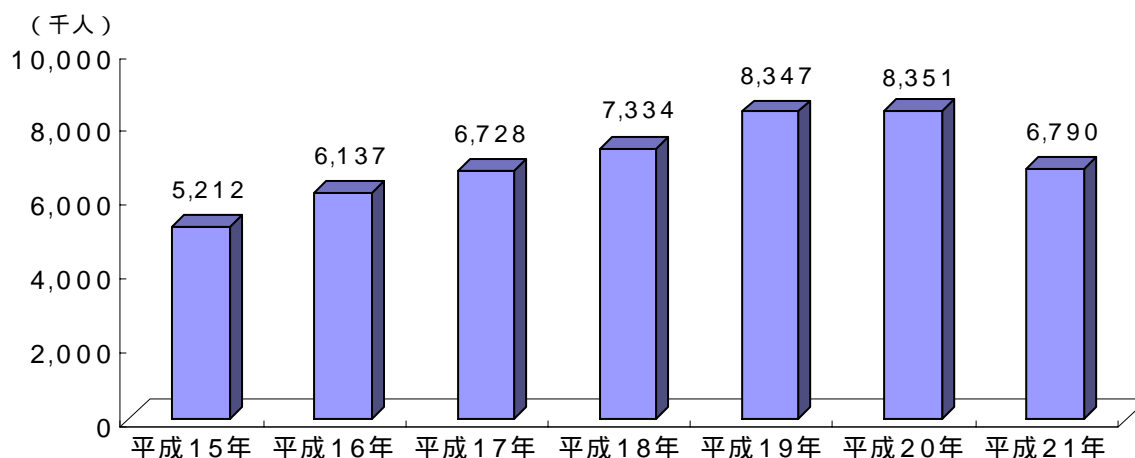
訪日外客数の減少はSARSが流行した平成15年以来6年ぶり、減少率が2桁となるのは昭和61年以来23年ぶりであった。

(参考1-1) 国内宿泊旅行の回数及び宿泊数の推移



注) 「平成22年度版観光白書」(国土交通省 観光庁)より引用

(参考1-2) 訪日外国人旅行者数の推移



注) 日本政府観光局（JNTO）資料により作成

2．長崎県の動向

(1) 概要

平成21年の観光客延べ数は、対前年25万人増(+0.9%)の2,813万人であり、2年ぶりに増加に転じた。

宿泊客延滞在数は、対前年7.8%減(82万人)の970万人、日帰り客は、対前年6.1%増(+107万人)の1,843万人であった。

平成21年は、前年から続く景気後退により旅行を手控える動きが広がり、円高や新型インフルエンザの影響から外国人観光客も大幅に減少したが、3月末に開始された高速道路料金の割引は、本土部において観光客、とりわけ日帰り客の増加要因と考えられる。

また、下期(7~12月)には、国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用して実施した「長崎県を2倍楽しむキャンペーン」等の観光緊急対策の効果も一定程度見られたほか、鷹島肥前大橋の開通(松浦市)、九十九島水族館「海きらら」のオープン(佐世保市)、仁田峠循環道路の無料化(雲仙市)なども観光客の増加要因となった。

県内を8つの地域ブロックに分けて見ると、日帰り客、宿泊客ともに前年を上回ったのは「平戸・松浦」、「諫早・大村」の2ブロック。観光客延べ数が前年を上回ったのは、「長崎・西彼」、「平戸・松浦」、「諫早・大村」、「五島」の4ブロックであった。

一方で、他の4ブロックでは観光客延べ数が前年を下回った。「佐世保・西海・東彼・北松」ブロックや「対馬」ブロックでは外国人観光客の大幅減少による影響が大きかったと考えられる。

図1 年次別観光客数の推移

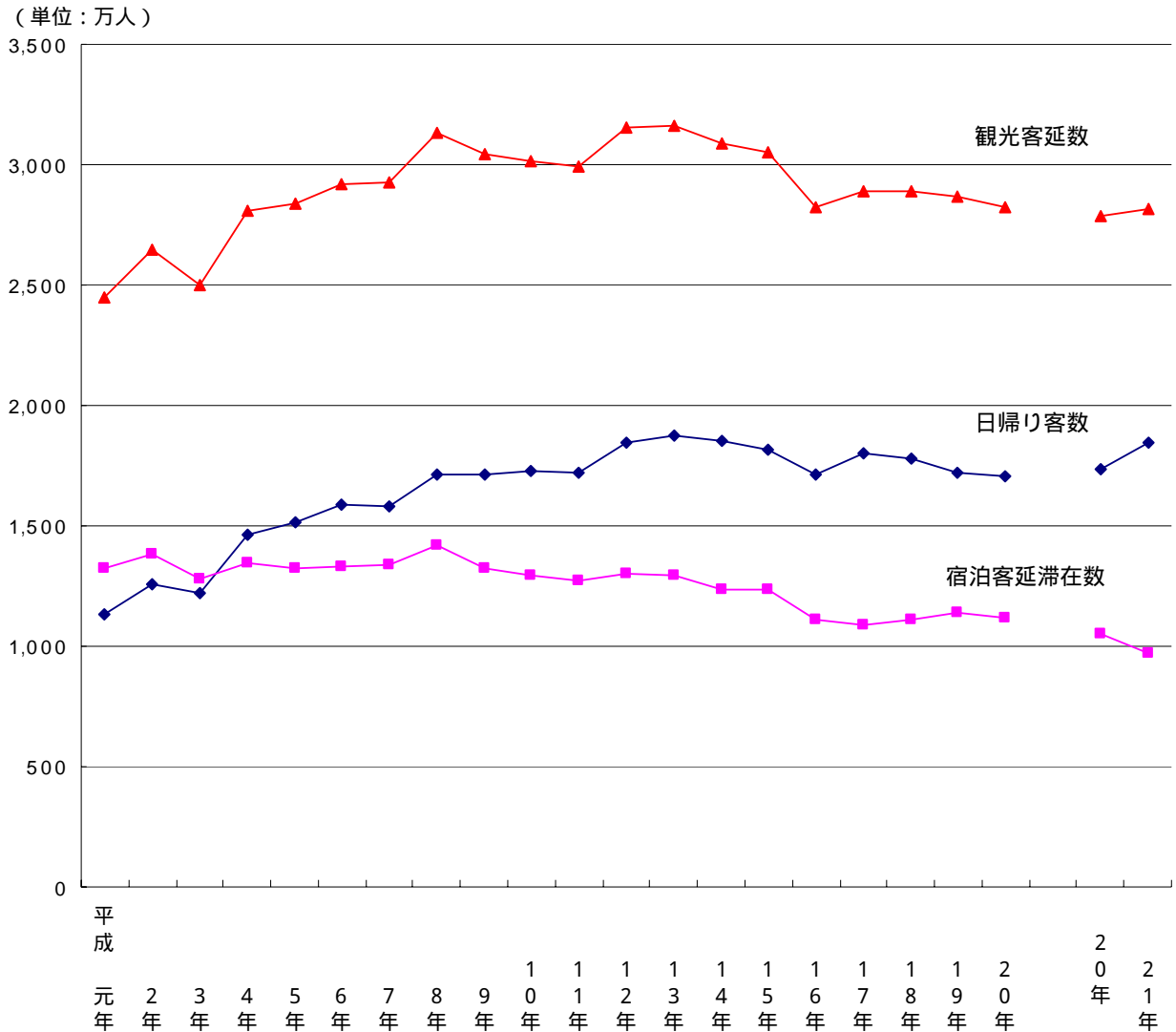


表1 年次別観光客延数

(単位：人、%)

	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	
日帰り客数	11,287,845	12,608,679	12,222,604	14,655,842	15,160,766	15,894,990	15,841,558	17,157,673	
宿泊客延滞在数	13,212,523	13,848,885	12,766,687	13,459,773	13,233,997	13,273,351	13,416,172	14,181,579	
観光客延数	24,500,368	26,457,564	24,989,291	28,115,615	28,394,763	29,168,341	29,257,730	31,339,252	
観光客延数対前年比		5.7	8.0	5.5	12.5	1.0	2.7	0.3	7.1

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	
日帰り客数	17,163,324	17,250,216	17,177,600	18,487,513	18,721,267	18,520,091	18,132,884	17,100,884	
宿泊客延滞在数	13,249,913	12,925,278	12,735,733	13,023,324	12,909,637	12,387,786	12,349,760	11,107,246	
観光客延数	30,413,237	30,175,494	29,913,333	31,510,837	31,630,904	30,907,877	30,482,644	28,208,130	
観光客延数対前年比		3.0	0.8	0.9	5.3	0.4	0.2	2.4	4.4

	17年	18年	19年	20年	20年	21年	
日帰り客数	18,009,465	17,778,715	17,226,737	17,086,474	17,359,982	18,426,149	
宿泊客延滞在数	10,890,687	11,127,760	11,414,683	11,154,695	10,522,114	9,702,548	
観光客延数	28,900,152	28,906,475	28,641,420	28,241,169	27,882,096	28,128,697	
観光客延数対前年比		2.4	0.0	1.7	1.4	-	0.9

注1) 「20年」は、佐世保市、平戸市、島原市、五島市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

注2) 平成14、15、16、17、19年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値を記載している。

また、「対前年比」については、再算定の影響を除外した数値を記載している(表中では斜体表記)。

(2) 地域ブロック別動向

長崎・西彼ブロック(580万人、対前年+0.6% +34千人)

長崎 市：景気後退の影響により、ランタンフェスティバル、帆船まつりといった既存イベントの集客数が減少するなど厳しい状況であったが、修学旅行やコンベンションの増加に加え、軍艦島上陸解禁、亀山社中記念館オープンといった新たな魅力の創出により、観光客延べ数は対前年0.5%増(+26千人)となった。

佐世保・西海・東彼・北松ブロック(730万人、対前年 8.6% 689千人)

佐世保市：日帰り客数は、高速道路料金の割引や九十九島水族館「海きらら」のオープンといったプラス要因により前年並みを維持したが、世界的な景気後退や円高、新型インフルエンザの影響等により外国人観光客が大幅に減少したことなどから、宿泊客数は対前年21.6%減(617千人)と大幅に減少した。その結果、観光客延べ数は対前年11.7%減(617千人)となった。

西海 市：宿泊客数は減少したが、大島町、崎戸町への入り込みが増加したことなどにより日帰り客数は対前年1.9%増(+17千人)となり、観光客延べ数は、対前年1.2%増(+13千人)となった。

平戸・松浦ブロック(292万人、対前年+33.5% +733千人)

平戸 市：景気後退の影響により厳しい状況であったが、日蘭交流400周年を記念したイベントを年間通して実施したこと、県の観光緊急対策に加え、市独自の宿泊キャンペーンを展開したこと等により、観光客延べ数は対前年4.9%増(+87千人)となった。

松浦 市：鷹島肥前大橋の開通により鷹島への観光客数が9.5倍に増加したほか、グルメツアーも好調であったことにより、日帰り客は対前年206.1%増(+641千人)となり、観光客延べ数は対前年155.6%増(+646千人)の106万人となった。

諫早・大村ブロック(329万人、対前年+10.5% +312千人)

諫早 市：新規観光施設・宿泊施設のオープン効果により、日帰り客数、宿泊客数ともに前年を大きく上回った。その結果、観光客延べ数は対前年14.4%増(+288千人)となった。

大 村 市：福岡都市圏を中心とした積極的な情報発信が奏功し、体験型観光が好評であることなどから、日帰り客数は対前年3.2%増(+27千人)となった。また、宿泊客数の減少が新規宿泊施設の開業により対前年1.4%減(1千人)にとどまったため、観光客延べ数は5年連続で増加し、対前年2.5%増(+24千人)となり、初めて100万人を超えた。

島原半島ブロック(692万人、対前年 0.2% 11千人)

島 原 市：平成20年から続く厳しい経済情勢や、高速道路料金の割引により公共交通機関の利用が大きく減少したことが要因となり、観光客延べ数は対前年7.3%減(117千人)となった。

雲 仙 市：宿泊客数は対前年7.3%減(100千人)と厳しい状況であったが、4月からの仁田峠無料開放や10月の全国育樹祭の開催等により、日帰り客数が対前年9.6%増(+242千人)と大幅に増加したため、観光客延べ数は対前年3.6%増(+142千人)となり、3年連続の増加となった。

南島原市：景気後退の影響により日帰り客数、宿泊客数ともに減少した。特に、宿泊客数は、市内宿泊施設の閉館も影響し対前年9.2%減(12千人)と減少幅が大きく、観光客延べ数は対前年2.5%減(36千人)となった。

五島ブロック(64万人、対前年+1.1% +7千人)

五 島 市：梅雨明けが8月上旬までずれ込むなど、夏場の天候不順が大きなマイナス要因となったが、ウェルカムアイランドキャンペーンの実施により宿泊数の増加が見られ、宿泊客数は対前年4.7%増(+12千人)となった。一方、11、12月には入込客数が大幅に落ち込んだため、観光客延べ数は対前年0.4%増(+2千人)とほぼ前年並みであった。

新上五島町：経済情勢の悪化や高速道路料金値下げといったマイナス要因があったものの、ウェルカムアイランドキャンペーンの実施等により夏期の海水浴客・イベント客が増加しており、島外からの観光客の減少に歯止めがかかった。また、地元客の増加もあり、観光客延べ数は、対前年2.6%増(+5千人)と、7年ぶりの増加となった。

壱岐ブロック(55万人、対前年 6.0% 35千人)

壱 岐 市：経済情勢の悪化による旅行需要の減少に加え、夏場の天候不良による海水浴客の減少なども影響し、日帰り客数、宿泊客数ともに減少した。その結果、観光客延べ数は対前年6.0%減(35千人)となり、8年連続の減少となった。

対馬ブロック（69万人、対前年 13.2% 105千人）

対馬市：経済情勢の悪化や高速道路料金割引の影響による国内客の減少、円高ウォン安の進行による韓国人客の減少が重なった結果、日帰り客数、宿泊客数ともに大きく減少し、観光客延べ数は対前年13.2%減（105千人）となった。

表2 ブロック別観光客数

（単位：人、%）

年 ブロック別	平成17年	前年比	平成18年	前年比	平成19年	前年比	平成20年	前年比	平成21年	前年比
県計	28,900,152	-	28,906,475	0.0	28,641,420	-	27,882,096	-	28,128,697	0.9
長崎	5,561,529	-	5,845,044	5.1	5,822,884	0.4	5,765,674	1.0	5,799,941	0.6
西彼	9,309,712	4.7	9,579,506	2.9	9,104,442	-	7,992,976	-	7,304,333	8.6
佐世保・西海 東彼・北松	2,217,205	4.3	2,226,331	0.4	2,197,268	1.3	2,191,630	-	2,924,846	33.5
平戸・松浦	3,106,784	-	2,988,299	3.8	2,960,982	0.9	2,979,434	0.6	3,291,837	10.5
諫早・大村	6,048,218	-	5,667,310	6.3	5,915,811	4.4	6,934,488	-	6,923,057	0.2
島原半島	1,318,164	6.9	1,261,440	4.3	1,262,554	0.1	633,597	-	640,460	1.1
五島	641,219	1.9	614,126	4.2	608,952	0.8	589,466	3.2	554,098	6.0
壱岐	697,321	0.0	724,419	3.9	768,527	6.1	794,831	3.4	690,125	13.2
対馬										

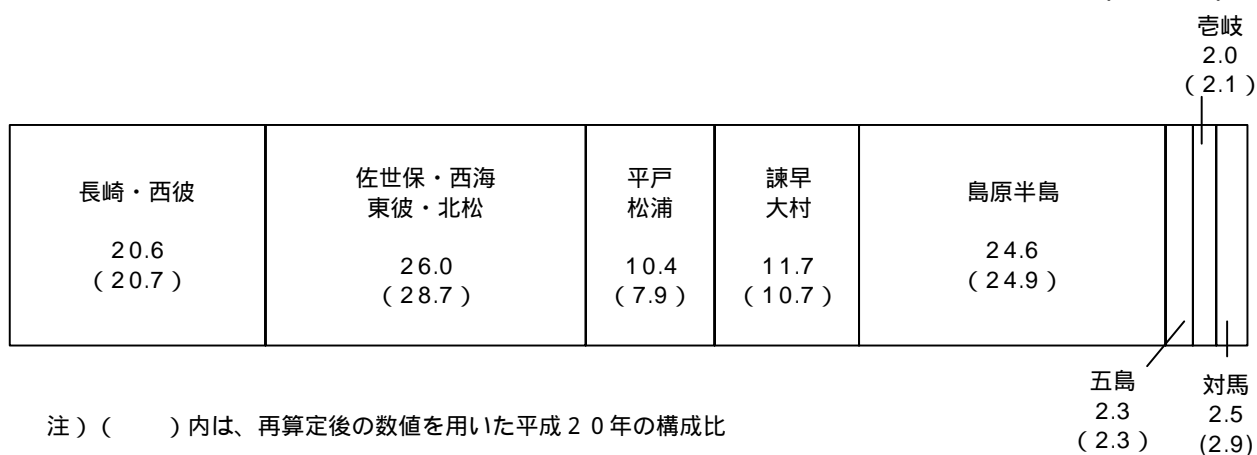
注1)平成20年は、佐世保市、平戸市、島原市、五島市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

そのため、前年比は「-」としている。

注2)平成17年、平成19年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

図2 平成21年 ブロック別観光客構成比

（単位：%）



注) ()内は、再算定後の数値を用いた平成20年の構成比

図2によりブロック別構成比を見てみると、最も構成比が高かったのは、「佐世保・西海・東彼・北松ブロック」で26.0%であった。一方で、外国人観光客の減少の影響を強く受けたこともあり、構成比の減少幅が最も大きかったのも「佐世保・西海・東彼・北松ブロック」であった（前年比2.7ポイント減）。逆に、増加幅が最も大きかったのは、鷹島肥前大橋の開通効果などが見られた「平戸・松浦ブロック」で対前年2.5ポイント増であった。

図3により過去20年間の年次別動向をみると、「長崎・西彼ブロック」は、平成2年の長崎「旅」博覧会での伸び、平成3年の反動減による落ち込み、平成4年のいわゆるハウステンボス効果による伸びを見せ、あぐりの丘（長崎市）、飛島磯釣り公園（旧高島町）のオープン効果が大きかった平成10年にピークを迎えた。その後は伸び悩んでいたが、平成18年は“さるく博”効果により増加した。

「佐世保・東彼ブロック」は、平成4年3月のハウステンボス開業から「世界焔の博覧会」効果が見られた平成8年まで増加傾向を維持した後、減少傾向に転じた。その後、グルメ観光、西海パールシーリゾートの集客増、ハウステンボスのリニューアル効果などにより平成17年から3年連続で大幅な増加を続けていたが^{（注）}、平成20年、21年には外国人観光客が大幅に減少した影響を強く受け、減少に転じる結果となった。

「島原半島ブロック」は、平成2年11月の雲仙普賢岳噴火の影響により、平成3年に大きく減少した。噴火活動が終息した平成9年以降も平成2年の水準までは回復しておらず、平成12年にながさき阿蘭陀年・島原半島キャンペーンなどによって大きく伸びた後は減少傾向が続いていたが、平成19年には、火山都市国際会議の開催（島原市）や、宿泊施設の営業戦略が奏功したことなどにより5年ぶりに増加に転じた。

「諫早・大村ブロック」は、平成8年の「世界焔の博覧会」時をピークに減少を続けた後、再び増加傾向に転じて平成17年には過去最高を記録した。近年は2年連続で減少していたが、平成20年には3年ぶりに増加に転じた。

「平戸・松浦ブロック」は、生月大橋が開通した平成3年及び平成4年に大きく増加し、その後は横ばい状態が続いていたが、鷹島肥前大橋の開通効果等により、平成21年には大幅に増加した。

「五島ブロック」は、小幅な増減を繰り返しながらほとんど横ばいの状態が続いている^{（注）}。

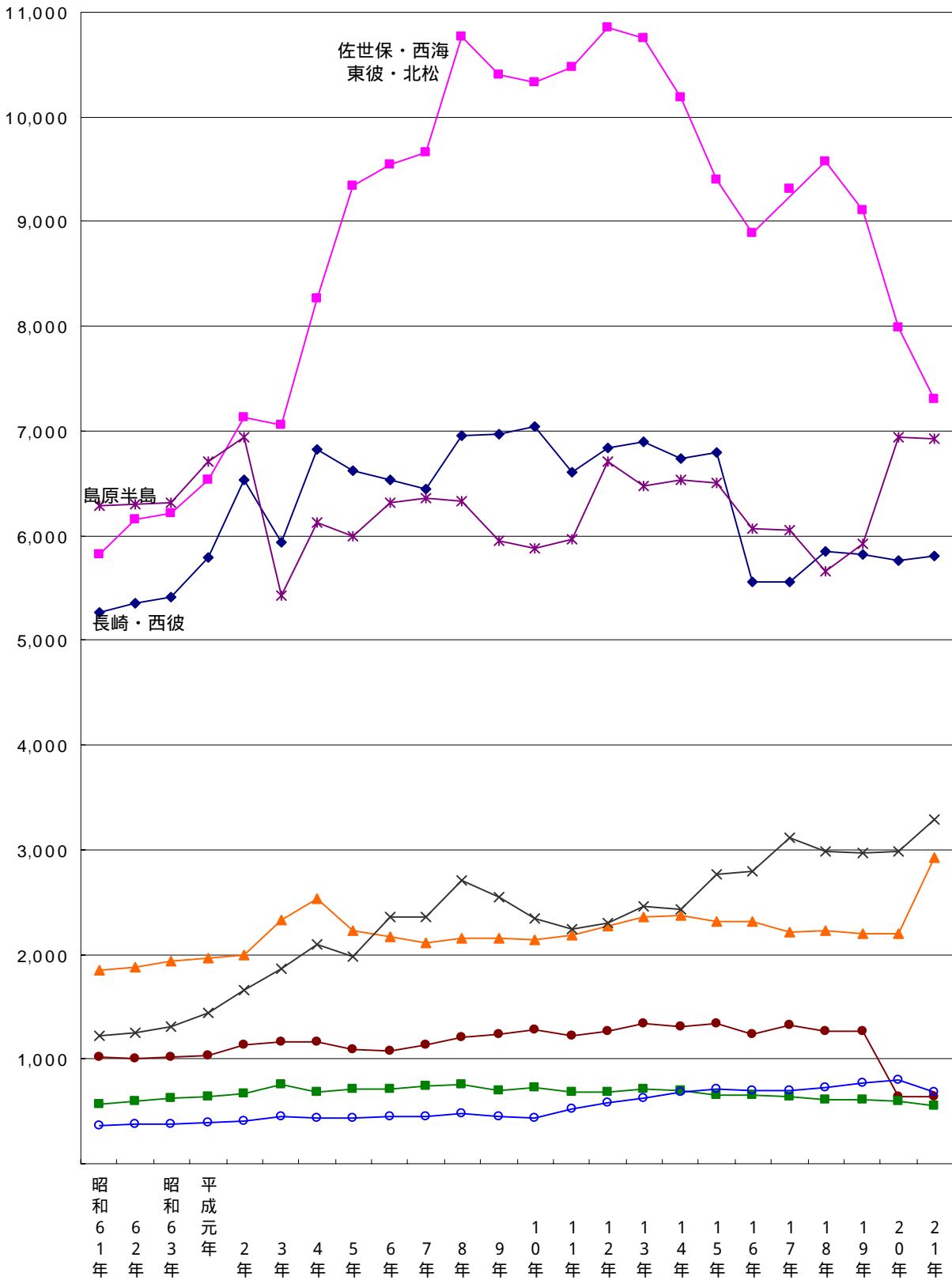
「壱岐ブロック」は、平成13年をピークとして、減少傾向が続いている。

「対馬ブロック」は、ほとんど横ばいの状態が続いていたが、韓国人観光客の増加を背景に近年増加傾向にあったが、平成21年には、韓国人観光客が減少した影響により、観光客数は減少に転じた。

注) 統計手法見直しに伴う再算定の実施により、再算定の前後で数値が連続しない箇所がある。そのため、一部箇所において本文中の記述とグラフの形状が一致しない。

図3 ブロック別年次別観光客数の推移

(単位：千人)



注) 平成14,15,16,17,19,20年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。そのため、再算定の前後で数値が連続しない箇所がある

(3) 日帰り・宿泊別観光客の動向

観光客を日帰り客、宿泊客に分けて動向を見ると、日帰り客は18,426千人(前年比6.1%増)、宿泊客は9,703千人(前年比7.8%減)となった。

近年、宿泊観光から日帰り観光へのシフトに歯止めがかかりつつあったが、平成20年には一転し、3年ぶりに日帰り客の割合が増加し、21年も同様の傾向が継続している。

(表3、表4参照)

表3 ブロック別日帰り・宿泊客数

(単位：人、%)

	日帰り客数			宿泊客延滞在数			平均宿泊日数
	平成19年	平成20年	平成21年	平成19年	平成20年	平成21年	
県計	17,226,737	17,359,982	18,426,149	11,414,683	10,522,114	9,702,548	1.60 1.56 1.58
	-	-	6.1	-	-	7.8	
長崎・西彼	3,247,804	3,253,002	3,347,559	2,575,080	2,512,672	2,452,382	2.79 2.79 2.79
	0.5	0.2	2.9	0.2	2.4	2.4	
佐世保・西海 東彼・北松	5,724,264	4,814,814	4,765,481	3,380,178	3,178,162	2,538,852	1.16 1.17 1.18
	-	-	1.0	-	-	20.1	
平戸・松浦	1,261,144	1,450,016	2,176,406	936,124	741,614	748,440	1.54 1.56 1.55
	0.7	-	50.1	2.1	-	0.9	
諫早・大村	2,248,486	2,276,645	2,491,752	712,496	702,789	800,085	1.17 1.25 1.30
	2.5	1.3	9.4	4.4	1.4	13.8	
島原半島	4,122,623	5,100,956	5,201,383	1,793,188	1,833,532	1,721,674	1.16 1.16 1.14
	5.1	-	2.0	2.8	-	6.1	
五 島	357,773	211,625	204,856	904,781	421,972	435,604	2.31 1.52 1.51
	0.2	-	3.2	0.2	-	3.2	
壱 岐	78,893	76,276	72,310	530,059	513,190	481,788	2.27 2.28 2.09
	1.0	3.3	5.2	0.8	3.2	6.1	
対 馬	185,750	176,648	166,402	582,777	618,183	523,723	2.13 2.10 2.07
	4.0	4.9	5.8	9.8	6.1	15.3	

注1) 下段は前年比(単位：%)

注2) 平均宿泊日数は、上段が平成19年、中段が平成20年、下段が平成21年の値

注3) 平成19年の日帰り観光客数、宿泊客延滞在数は、佐世保市再算定後の数値である。

注4) 平成20年の日帰り観光客数、宿泊客延滞在数は、佐世保市、平戸市、島原市、五島市再算定後の数値である。そのため、前年比は「-」としている。

注5) 平成19年、20年の平均宿泊日数は、再算定後の数値を用いて算出している。

(4) 地元・県内・県外別観光客の動向

観光客の動向を地元・県内・県外に区分して実数でみると、

地元客 3,094千人で前年比6.8%増
 県内客 6,391千人で前年比6.4%増
 県外客 12,702千人で前年比1.1%増

となっており、地元・県内・県外すべての区分で増加する結果となった。

(表4参照)

また、観光客実数22,187千人(前年比3.4%増)に対する地元:県内:県外の構成比は、14:29:57となっており、県外客の占める割合が最も高い。県外客の割合は近年増加傾向にあったが、平成21年には地元客・県内客の割合が上昇し、県外客の割合は減少した。

(表4、図4参照)

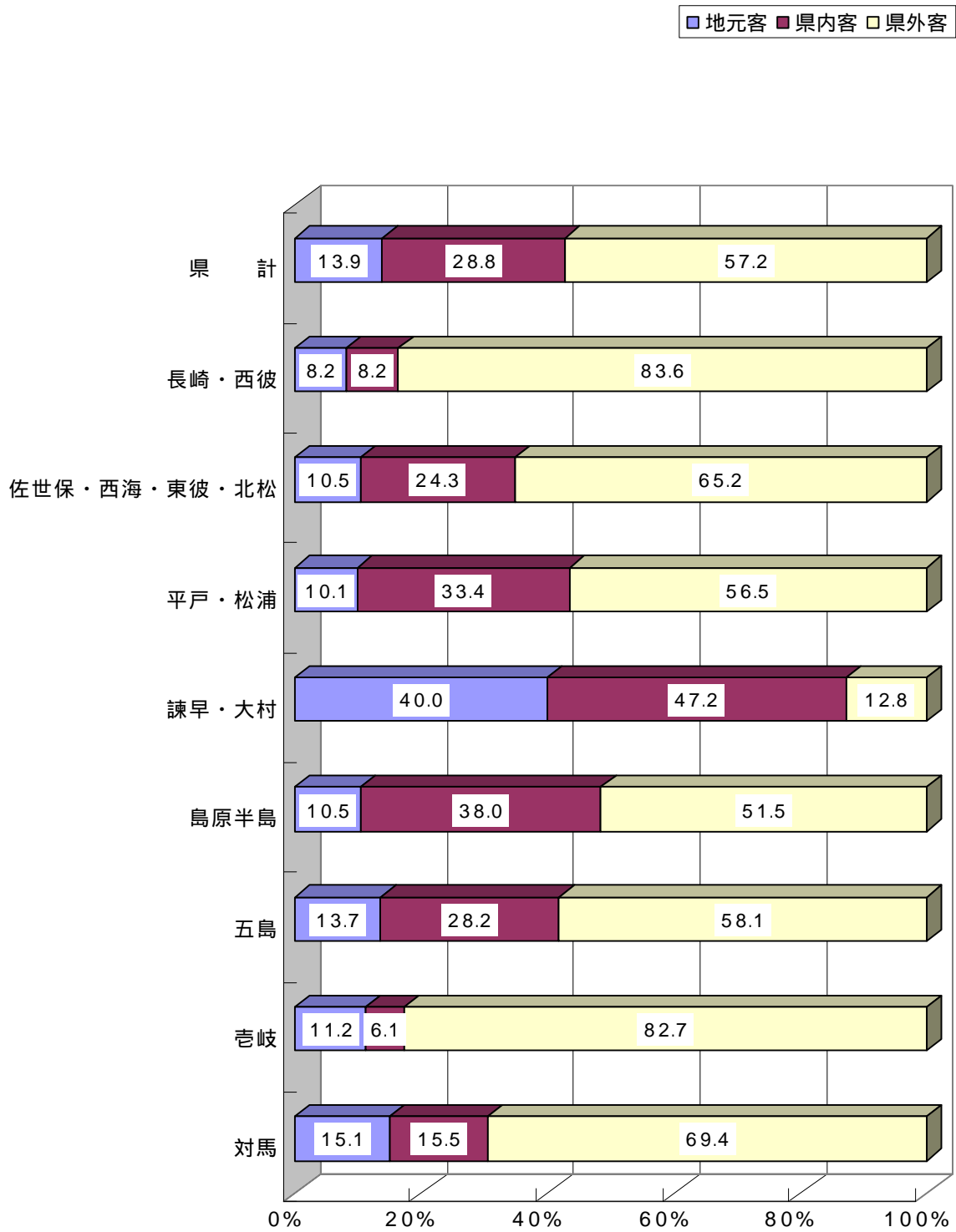
表4 観光客延数・実数

(単位:人、%)

項目	17年 構成比	18年 構成比	19年 構成比	20年 構成比	21年 構成比	前年比
観光客延数	28,900,152 100.0	28,906,475 100.0	28,641,420 100.0	27,882,096 100.0	28,128,697 100.0	0.9
日帰り客数	18,009,465 62.3	17,778,715 61.5	17,226,737 60.1	17,359,982 62.3	18,426,149 65.5	6.1
宿泊客延滞在数	10,890,687 37.7	11,127,760 38.5	11,414,683 39.9	10,522,114 37.7	9,702,548 34.5	7.8
延宿泊数	6,677,226 -	6,853,259 -	7,022,367 -	6,415,756 -	5,941,604 -	7.4
宿泊客実数	4,213,461 -	4,274,501 -	4,392,316 -	4,106,358 -	3,760,944 -	8.4
平均宿泊数	1.58泊 -	1.60泊 -	1.60泊 -	1.56泊 -	1.58泊 -	-
観光客実数	22,222,926 100.0	22,053,216 100.0	21,619,053 100.0	21,466,340 100.0	22,187,093 100.0	3.4
地元客	3,134,581 14.1	3,097,665 14.1	2,971,487 13.7	2,896,301 13.5	3,094,475 13.9	6.8
県内客	6,590,215 29.7	6,311,403 28.6	5,972,584 27.6	6,008,250 28.0	6,390,852 28.8	6.4
県外客	12,498,130 56.2	12,644,148 57.3	12,674,982 58.6	12,561,789 58.5	12,701,766 57.2	1.1

注)平成17,19,20年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

図4 平成21年 ブロック別地元客・県内客・県外客の構成比



(5) 外国人宿泊客の動向

外国人宿泊客延滞在数は、前年から続く厳しい経済情勢と円高基調で推移した為替レート、新型インフルエンザの流行による風評被害等により大幅に減少し、対前年40.5%減の52万5千人であった(宿泊客実数は21万3千人、対前年44.7%)。

国・地域別に見ると、宿泊客数が多い順に韓国、台湾、米国、中国、香港の順となっている。外国人宿泊客の6割近くを占める韓国については、円高ウォン安と経済情勢の悪化が重なり、対前年49.2%減と大幅に減少した。

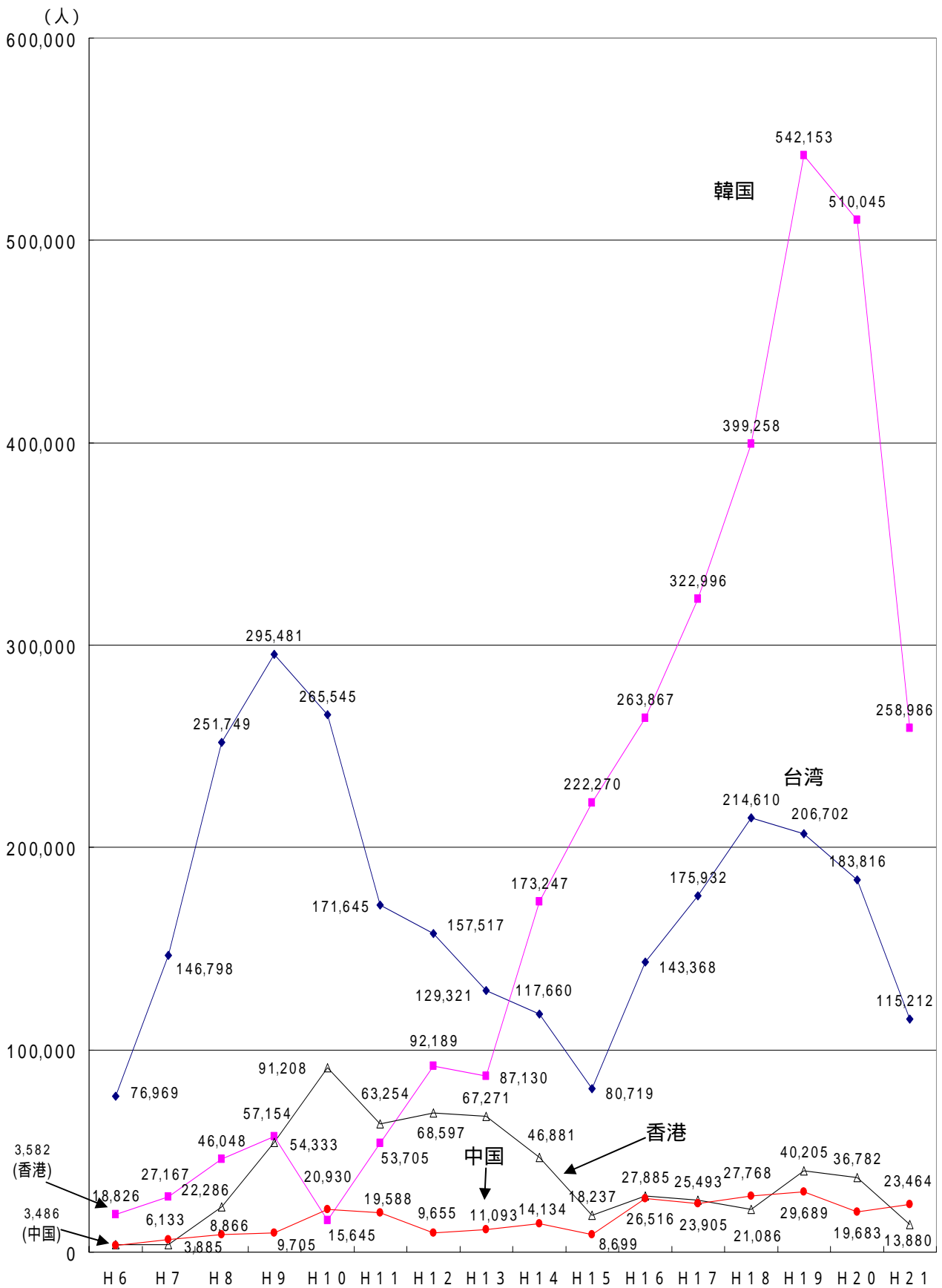
長崎港への国際観光船の入港については、中国からのクルーズ客船「コスタ・アレグラ号」及び「コスタ・クラシカ号」が前年の3隻から24隻と増加したことが主要因となり、全体では21隻増の48隻となった。

表5 外国人宿泊客数(宿泊客延滞在数)の推移(県全体)

(単位:人、%)						
	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
県計	151,759	259,172	419,067	503,100	503,304	399,996
対前年比	-	70.8	61.7	20.1	0.0	20.5
	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
県計	433,724	405,424	442,653	436,505	575,223	672,761
対前年比	8.4	6.5	9.2	1.4	31.8	17.0
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年		
県計	783,212	945,870	883,602	525,437		
対前年比	16.4	20.8	6.6	40.5		

注)外国人宿泊客数(宿泊客延滞在数)については、平成6年から調査開始している。

図5 東アジア主要4カ国・地域の外国人宿泊客数（宿泊客延滞在数）の推移



(6) 修学旅行宿泊客の動向

修学旅行宿泊者数は、平成19年まで減少傾向が続いていたが、県・市町一体となった集中的なセールス活動が奏功し、平成20年の調査・公表開始以降初めて増加に転じた昨年に続き、2年連続の増加となった。

春には新型インフルエンザの流行による旅行の中止が懸念されたが、延期して旅行を実施するよう働きかけることで、影響は最小限にとどまった。また、海外への修学旅行を中止した学校に対しては、本県へ振り替えるよう働きかけを行い、20校以上を新たに誘致した。

市町別に見ると、構成比の大きな長崎市が2年連続の増加であったほか、松浦市、壱岐市など5市町で増加率が2桁となった。

表6 市町別修学旅行宿泊者数

(単位：人、%)

	平成19年	平成20年	平成21年	前年比
県計	390,768	408,909	433,361	6.0
長崎市	266,400	271,700	291,300	7.2
佐世保市	52,334	54,048	51,164	5.3
島原市	10,401	10,047	8,531	15.1
雲仙市	29,885	29,088	33,126	13.9
諫早市	3,879	5,344	5,274	1.3
平戸市	6,670	10,348	12,501	20.8
松浦市	6,102	10,737	14,536	35.4
五島市	2,085	4,295	3,440	19.9
新上五島町	129	0	85	皆増
壱岐市	8,737	7,188	9,177	27.7
対馬市	1,092	1,220	188	84.6
川棚町	2,405	2,489	817	67.2
小値賀町	380	1,283	1,246	2.9
鹿町町	269	1,122	1,976	76.1

注1) 市町調査(聞き取り)による数値

長崎市については、市発表の団体客(学生客)の数であるため、日帰り客を含む

注2) 実績がある市町のみ掲載している。

3. 長崎県の観光消費額の動向

(1) 平成21年の観光消費額

観光消費額 2,325億円 (対前年6.9%減)

平成21年1月から12月まで

～ 平成20年の2,496億円と比べ、172億円の減少 ～

1人1日当たりの平均消費額 日帰り客 5,806円(対前年8.7%減)
 宿泊客 18,859円(対前年2.7%減)

表7 観光消費額

(単位：百万円、%)

項目	年	17年	18年	19年	20年	20年	21年
県計		248,693	254,059	254,660	250,752	249,638	232,456
前年比		-	2.2	-	1.5	-	6.9
日帰り客計		106,700	107,112	104,886	103,877	110,399	106,986
前年比		-	0.4	-	1.0	-	3.1
交通費		34,083	33,679	33,039	33,586	36,626	36,908
飲食・娯楽費		39,358	40,470	39,187	37,749	40,578	38,033
土産・その他		33,259	32,963	32,660	32,542	33,196	32,045
宿泊客計		141,993	146,947	149,774	146,875	139,238	125,470
前年比		-	3.5	-	1.9	-	9.9
宿泊費		66,775	69,880	71,605	69,918	71,634	63,851
交通費		33,617	35,352	36,134	36,024	29,819	27,263
飲食・娯楽費		29,668	29,814	30,107	29,305	25,721	23,536
土産・その他		11,933	11,901	11,928	11,627	12,066	10,819

注1) 「20年」は、佐世保市、平戸市、島原市、五島市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。そのため、前年比は「-」としている。

注2) 平成17、19年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である

(2) 日帰り客の動向

日帰り客の消費額は、1,070億円(前年比3.1%減)であった。1人あたりの平均消費額は、5,806円(8.7%減)で、費目別に見ると、交通費2,003円、飲食・娯楽費2,064円、土産・その他1,739円となっている。(表7、表8参照)

(3) 宿泊客の動向

宿泊客の消費額は、1,255億円(前年比9.9%減)であった。1人当たりの平均消費額は、18,859円(2.7%減)で、費目別に見ると、宿泊費10,746円、交通費2,810円、飲食・娯楽費2,426円、土産・その他2,877円となっている。(表7、表8参照)

表8 1人当たりの平均消費額

(単位：円、%)

項目 \ 年	17年	18年	19年	20年	20年	21年
日帰り客計	5,924	6,025	6,089	6,079	6,359	5,806
前年比	-	1.7	-	0.2	-	8.7
交 通 費	1,892	1,894	1,918	1,966	2,110	2,003
飲 食 ・ 娯 楽 費	2,185	2,276	2,275	2,209	2,337	2,064
土 産 ・ そ の 他	1,847	1,854	1,896	1,905	1,912	1,739
宿泊客計	18,643	18,837	18,715	18,735	19,382	18,859
前年比	-	1.0	-	0.1	-	2.7
宿 泊 費	10,000	10,197	10,197	10,156	11,165	10,746
交 通 費	3,087	3,177	3,166	3,229	2,834	2,810
飲 食 ・ 娯 楽 費	2,724	2,679	2,638	2,627	2,444	2,426
土 産 ・ そ の 他	2,832	2,784	2,716	2,723	2,938	2,877

注1) 各費目の平均消費額は、以下の数値を掲載している

「宿泊費」：1泊当たりの額

「交通費」、「飲食・娯楽費」：1日当たりの額

「土産・その他」：旅行1回当たりの額

注2) 「20年」は、佐世保市、平戸市、島原市、五島市の統計手法見直しに伴う

再算定後の数値である。そのため、前年比は「-」としている。

注3) 平成17,19年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。